



新型コロナウイルス封じ込め対策における 医療サービスへのアクセスと手話言語通訳者の健康に関するWFD-WASLI 共同声明 (一般社団法人日本手話通訳士協会試訳)

現在の新型コロナウイルス感染の拡大により、政府当局や医療の専門家のみならず、市民の間でも不安が高まっています。各国政府の感染への対応は、全ての人々を包摂する必要があります。そこには手話言語使用者であろう者も含まれます。WFDとWASLIは、各国政府があらゆるレベルにおいて、障害者権利条約を遵守し、第9条、第21条に則り、情報への完全なアクセスと全てのサービスの利用を保障することを求めます。

各国政府関係者によって行われるあらゆる公衆衛生に関わる発表が、自国の手話言語でも伝えられることは不可欠です。テレビの新型コロナウイルス流行に関する報道（ライブ/録画のいずれの場合も）は、自国の手話言語に即時通訳されるべきであり、全放送時間、鮮明に見えるように手話言語通訳者を画面に映すべきです。

WFDとWASLIは、世界各国のろう協会と共に、新型コロナウイルスに関する情報を、自国の手話言語でろう者が直接入手できるように要求します。各国の保健医療機関や政府機関から、国民に対して出される情報は、自国の手話言語で伝達されるべきです。障害者権利条約第21条にある通り、各国政府には文字情報だけではなく、手話言語で情報を提供する義務があります。また、国際的な保健医療機関は、発信する情報や衛生教育の啓発のための教材や資料を国際手話言語で提供するべきであり、同時に、特定の国に関わる内容については、その国の手話言語で行わなければなりません。

WASLIとWFDは、世界の手話言語通訳者の健康と安全の保障を重要な問題として考え、あらゆる現場における職業上の基準の整備に取り組んでいます。今回の新型コロナウイルス感染の問題は、世界各国において、必要な制度として業務に従事する手話言語通訳者の健康と安全を守りつつ、ろう者の手話言語通訳の利用を保障する手話言語通訳業務のあり方を確立することの必要性を示しています。WASLIとWFDは、手話言語通訳者とろう者が協力して、通訳者の健康と安全や、(多くの場合、限られている)人材を危険にさらすことなく、ろう者が情報と医療にきちんとアクセスできる方策を見出す努力をすることを奨励します。非常時の現場や医療現場に携わる手話言語通訳者に対しても、新型コロナウイルス感染の現場で働く医療従事者と同様の健康と安全が保障されるべきです。そうした現場での最善の通訳方法としては、外科手術用の透明マスクの使用や、透明なスクリーン越しでの通訳などの代替案が考えられます。それによって、手話言語の文法的要素として重要な顔の表情や口の動きが見える形で通訳をすることができるからです。ろうの患者の了承の下、WFDの「アクセシビリティに関する方針文書：手話言語通訳/手話言語翻訳とテクノロジーの発展」に準拠して行うならば、遠隔通訳システムの利用も可能性の一つとして考えられるでしょう。

手話言語通訳利用の好事例に関する詳細な情報については、WFDの「アクセシビリティに関する方針文書：手話言語通訳/手話言語翻訳とテクノロジーの発展」をご参照ください。

WFDとWASLIは、今後も状況を見据えつつ、必要に応じて、指針を提示していきます。